科目ナンバリング	U-LAS00 10001 LJ34							
授業科目名 <英訳>	哲学 I Philosophy I					担当者所属 職名・氏名	文学研究科　准教授　早瀬　篤	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(基礎)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）	
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金3	配当学年	全回生	対象学生	全学向	

[授業の概要・目的]

【主題】物事の原因を説明するということ：初期ギリシア哲学・プラトン・アリストテレスの哲学的原因論

　古代ギリシアに起源をもつ哲学探究では、そのはじめからずっと、何かの原因であるとはどのようなことか、また原因を説明することは一般的にどのようになされるべきなのか、ということが主要な関心事のひとつであり続けています。哲学のはじまりに位置づけられる初期ギリシア自然学は、我々の生きる宇宙がどんなものを原因（アイティア、アイティオン）として成立しているのかという問いと緊密に結びついていました。例えばミレトスのタレスは、宇宙が水を原因として成立していると考え、ミレトスのアナクシメネスは宇宙が空気を原因として成立していると考えました。そしてプラトンとアリストテレスは、原因を説明することがどのようになされるべきかを徹底的に考え抜いて、その成果を自分たちの哲学体系の中心付近に据えています。
　本講義では、哲学における主要問題である因果論を考察するための基礎訓練として、初期ギリシア哲学とプラトンとアリストテレスにおける原因の説明に関する見解を丁寧に辿りながら、彼らとともにこの問題について考えていくことを目的とします。

[到達目標]

1．専門家（学者たち）がどのように哲学的テクストを読んでいるのかを学ぶこと。
2．古代ギリシア哲学における原因の概念について適切な説明ができるようになること。
3．古代ギリシアの哲学者たちの見解をモデルとしながら、哲学的因果論に関する自分の見解を形成・表現するための基礎的訓練を積むこと。

[授業計画と内容]

以下のように講義を進めていく予定です。受講者の理解度を見ながら、必要に応じて講義内容の調整や変更を行うこともあります。

第 1回　イントロダクション（現代と古代における因果論の特徴の違いを説明）
第 2回　初期ギリシア哲学の因果論①：ミレトス学派
第 3回　初期ギリシア哲学の因果論②：パルメニデスの挑戦
第 4回　初期ギリシア哲学の因果論③：パルメニデスへの応答
第 5回　プラトンの原因説明概観
第 6回　プラトンの原因説明①：自然学的原因説明
第 7回　プラトンの原因説明②：善いものを生みだす知性による原因説明
第 8回　プラトンの原因説明③：形相原因説
第 9回　幕間：事物の諸形相の分類と専門知識の成立
第10回　アリストテレスの四原因説概観
第11回　アリストテレスの四原因説①：素材因
第12回　アリストテレスの四原因説②：形相因
第13回　アリストテレスの四原因説③：起動因
第14回　アリストテレスの四原因説④：目的因

哲学 I (2)へ続く↓↓↓

哲学Ⅰ(2)

第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

いずれかの回に、その直前の授業の内容に関わる小レポートを課題として出題します（25点）。学期末に、到達目標2にとくに関連する試験を行います（75点）。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初回に資料を配布しますので、授業前に関連する部分を丁寧に（考えながら）読んでおいてください。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]